



## 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(IFRS)(連結)

2024年11月7日

上場会社名 ウェルネオシュガー株式会社  
コード番号 2117 URL <https://www.wellneo-sugar.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務部担当  
半期報告書提出予定日 2024年11月13日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 山本 貢司  
(氏名) 大場 健司  
配当支払開始予定日

TEL 03 - 3668 - 1293  
2024年12月2日

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		中間利益		親会社の所有者に 帰属する中間利益		中間包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	48,221	7.2	4,828	80.3	4,967	18.2	3,462	12.2	3,462	12.2	3,416	4.3
2024年3月期中間期	44,965	82.8	2,678	269.5	4,202	431.3	3,087	608.5	3,087	608.5	3,571	448.7

	基本的1株当たり中間利益		希薄化後1株当たり中間利益	
	円銭		円銭	
2025年3月期中間期	105.69			
2024年3月期中間期	94.25			

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分		親会社所有者帰属持分比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%	
2025年3月期中間期	95,087		72,635		72,635		76.4	
2024年3月期	95,918		71,107		71,107		74.1	

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2024年3月期		46.00		56.00	102.00
2025年3月期		46.00			
2025年3月期(予想)				46.00	92.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

剰余金の配当(中間配当)および年間配当予想については、本日(2024年11月7日)公表しました「剰余金の配当(中間配当)に関するお知らせ」および添付資料P.6「1.経営成績等の概況(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明イ.剰余金の配当(中間配当)および年間配当予想について」をご覧ください。

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的 1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭	
通期	95,000	3.0	7,000	20.6	7,100	6.9	5,000	9.5	5,000	9.5	152.54	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	35,053,483 株	2024年3月期	35,053,483 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	2,288,588 株	2024年3月期	2,288,574 株
期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	32,764,899 株	2024年3月期中間期	32,762,085 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 経営成績等の概況 (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料については、本日(2024年11月7日)当社ホームページで掲載しています。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 要約中間連結財政状態計算書 .....	7
(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書 .....	9
(3) 要約中間連結持分変動計算書 .....	11
(4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	13
(5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	14
(継続企業の前提に関する注記) .....	14
(セグメント情報) .....	14

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。このため、前年同期数値につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えて比較分析を行っています。

当中間連結会計期間におけるわが国の経済につきましては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方で、円安に伴う消費者物価上昇の影響や不安定な国際情勢などを受け、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当中間連結会計期間の業績は、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと等により、売上収益は48,221百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は4,828百万円(同80.3%増)となりました。前年同期において一過性の受取配当金を計上していた反動で金融収益が減少し、税引前中間利益は4,967百万円(同18.2%増)、親会社の所有者に帰属する中間利益は3,462百万円(同12.2%増)となりました。

セグメントの概況は以下のとおりです。なお、各セグメント利益は全社費用等527百万円を含んでいません。

#### [Sugarセグメント]

海外原糖市場につきましては、1ポンド当たり22セント台半ばで始まり、5月中旬に世界の砂糖需給見通しにおいて供給過剰が意識されたことなどから17セント台後半まで下落しました。一時20セント台半ばまで反発しましたが、ブラジルの生産が好調を維持したことや、インド、タイの増産見通しなどから、8月下旬には今期最安値となる17セント台半ばまで下落しました。その後、ブラジルの干ばつによる減産懸念が改めて広がり、9月後半には今期最高値となる23セント台後半まで急騰したのち、22セント台半ばで当中間連結会計期間を終了しました。

#### 海外原糖市況(ニューヨーク市場粗糖先物相場(当限))

	日付	セント/ポンド	円/kg	為替(円/ドル)
始値	2024年4月1日	22.65	76.11	152.43
高値	2024年9月26日	23.71	76.11	145.61
安値	2024年8月20日	17.52	56.79	147.03
終値	2024年9月30日	22.67	71.83	143.73

(注) 1ポンドは約0.4536kgとして換算し、為替は当日の三菱UFJ銀行直物為替公表TTSによっています。

国内精糖市況(日本経済新聞掲載、東京)につきましては、前期末から変わらず上白糖1kg当たり249円~251円で当中間期を終了しました。

このような状況のもと、業務用製品の販売量は、インバウンドの増加等により製菓、冷菓、調味料向け等で回復がみられたことにより前年同期を上回りました。家庭用製品の販売量は、当社独自製品の「きび砂糖」の出荷は好調に推移しましたが、家庭内調理機会の減少により前年同期を下回りました。利益面においては、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと、および有利な条件での原料調達を実行できたことにより、大幅な増益となりました。

以上の結果、Sugarセグメント合計の売上収益は41,446百万円(前年同期比8.0%増)、セグメント利益は5,007百万円(同95.7%増)となりました。

## [Food&amp;Wellnessセグメント]

Food&Wellnessセグメントにおきましては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業により、幅広い場面で活用される多種多様な機能性素材・サービスを提供しています。

フードサイエンス事業につきましては、当社独自製品の「きびオリゴ」は、腸内環境改善効果への関心の高まりに加え、採用店舗拡大に向けた営業活動から好調な出荷を継続しました。ツキオカフィルム製菓(株)では、箔押事業における受注増があったものの、フィルム事業における好採算商品の減少等により増収減益となりました。

フィットネス事業につきましては、積極的な広告宣伝活動および子ども向けスクール事業の受入体制強化によって、成人・子ども向けスクールともに会員数は緩やかに回復しました。引き続き事業の効率化を進めているものの、不採算店舗の退店影響や前年同期はリース負債の見直しによる再測定益を計上していたことから減収減益となりました。

倉庫事業につきましては、港湾運送において輸入合板の取扱量が減少したことから減収減益となりました。

以上の結果、Food&Wellnessセグメント合計の売上収益は6,775百万円(前年同期比3.0%増)、セグメント利益は348百万円(同45.0%減)となりました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

## (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は37,170百万円となり、前連結会計年度末に比べ756百万円減少しました。これは主に棚卸資産が1,412百万円増加した一方で、営業債権及びその他の債権が1,547百万円、現金及び現金同等物が676百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動資産は57,916百万円となり、前連結会計年度末に比べ74百万円減少しました。これは主に有形固定資産が432百万円増加した一方で、使用権資産が301百万円、その他の金融資産が272百万円それぞれ減少したことによるものです。

この結果、資産合計は95,087百万円となり、前連結会計年度末に比べ830百万円減少しました。

## (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は18,762百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,085百万円減少しました。これは主に借入金が1,090百万円、未払法人所得税等が319百万円、営業債務及びその他の債務が306百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動負債は3,689百万円となり、前連結会計年度末に比べ272百万円減少しました。これは主にリース負債が332百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は22,452百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,358百万円減少しました。

## (資本)

当中間連結会計期間末における資本合計は72,635百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,527百万円増加しました。これは主に親会社の所有者に帰属する中間利益3,462百万円および剰余金の配当による減少1,834百万円によるものです。

この結果、親会社所有者帰属持分比率は76.4%(前連結会計年度末比2.3ポイント増)となりました。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より676百万円減少し、11,833百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3,980百万円の収入(前年同期は269百万円の収入)となりました。

主なものは、税引前中間利益4,967百万円、減価償却費及び償却費1,174百万円、持分法による投資利益△100百万円、法人所得税の支払額△1,666百万円、ならびに棚卸資産の増加、営業債権及びその他の債権の減少、営業債務及びその他の債務の減少による△82百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,300百万円の支出(前年同期は538百万円の支出)となりました。

主なものは、有形固定資産及び無形資産の取得による支出△1,408百万円、ならびに投資の売却、償還による収入204百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3,357百万円の支出(前年同期は1,661百万円の支出)となりました。

主なものは、短期借入金の純減額による支出△1,090百万円、リース負債の返済による支出△435百万円、配当金の支払額△1,832百万円によるものです。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

## ア. 2025年3月期の連結業績予想について

第3四半期以降のわが国の経済は、消費の持ち直しが持続し、緩やかな景気回復が続く一方で、不安定な国際情勢や物価上昇による消費購買意欲の低下が懸念されるなど、引き続き予断を許さない状況が続く見通しです。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画「WELLNEO Vision 2027」の1年目として、当社を取り巻く様々なステークホルダーの“Well-being”の実現に向けた取り組みを進めております。2024年10月1日に子会社である日新製糖(株)および伊藤忠製糖(株)の吸収合併を実施し、一体的な効率経営のもと、以下各セグメントにおける成長施策を着実に進めてまいります。

Sugarセグメントにおきましては、主要生産国の天候懸念や地政学的リスク等により先行き不透明であり、エネルギーコストの高止まりや円安の影響を受け、業界環境が依然として厳しい状況ですが、当社は、生活必需品である砂糖の安定的な提供により社会的責任を果たしていくなかで、有利な条件での原料調達やコスト上昇に対する売価への反映を進め、採算を重視した経営に努めるとともに、経営統合のシナジー効果を早期に発揮することで、業績の向上を目指してまいります。

Food&Wellnessセグメントにおきましては、健康増進による人々の生活の質の向上に貢献するべく、多種多様な機能性素材・サービスを提供してまいります。

フードサイエンス事業では、「沖縄・奄美のきびオリゴ」のリニューアル新発売をはじめとした腸内環境の改善に資する機能性甘味料素材の販売を拡大してまいります。また、オーラルケア分野での効果が期待され、製造方法開発と機能研究が日本応用糖質科学会の「技術開発賞」を受賞した、当社独自の「サイクロデキストラン」の増産に向けた設備投資を進めてまいります。さらに、産学連携によるプレバイオティクス素材を活用した技術開発等を推進し、腸内・口腔フローラ環境を整えるフローラデザイン素材を軸とした様々な領域への事業展開の基盤づくりを引き続き推し進めてまいります。加えて、ツルヤ化成工業(株)の食品添加物や、ツキオカフィルム製薬(株)の「可食フィルム」の事業展開、両社との連携による商品開発力の強化など、グループ会社の資産と知見を最大限活用してまいります。

フィットネス事業では、会員数は徐々に回復傾向にあるものの、競合サービスの台頭など多様化が進み、経営環境は依然として厳しい状況にあります。ニーズにあわせた健康・からだづくりの場の提供を行い、集客促進のための広告宣伝も実施し、総合型店舗における子ども向けスクール事業の強化と採算を重視した経営に努め、早期の業績回復を目指してまいります。

以上の結果、2024年8月5日の「2025年3月期 第1四半期決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当社は2025年10月1日を目標に、当社を存続会社として、当社の連結子会社である第一糖業(株)を吸収合併(以下「本合併」といいます。)する基本方針を2024年5月24日開催の取締役会において決議いたしました。本合併に向けた必要な手続きの進捗に応じて、公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

イ. 剰余金の配当(中間配当)および年間配当予想について

当社は、「資本政策の基本的な方針」において、中長期的に親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)向上を図り、成長投資と株主還元の充実を両立させることとしています。利益配分につきましては、連結配当性向(DPR)60%、または親会社所有者帰属持分当率(DOE)3%のいずれか大きい額を基準に配当を行い、このうち、中間期決算公表時における1株当たり年間配当予想額の50%(1円未満切上げ)を1株当たり中間配当額としています。

なお、年間配当予想額につきましては、前回予想と変わらず、1株当たり92円とします。

これにより、中間配当につきましては、1株当たり年間配当予想額92円の50%(1円未満切上げ)の46円を1株当たり中間配当額とします。

(当社は、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議によって、会社法第454条第5項に定める中間配当をすることができる旨を定款に定めています。)

[1株当たり年間配当予想額の算定式]

連結配当性向(DPR)60%基準

期末基本的1株当たり予想連結当期利益152.44円の60%=92円(1円未満切上げ)

親会社所有者帰属持分当率(DOE)3%基準

期末1株当たり予想親会社所有者帰属持分2,229.81円の3%=67円(1円未満切上げ)

連結配当性向(DPR)60%基準92円の方が大きいいため、92円を1株当たり年間配当予想額とします。

中間配当の内容

	決 定 額	直近の配当予想 (2024年8月5日公表)	前期実績 (2024年3月期)
基 準 日	2024年9月30日	同左	2023年9月30日
1株当たり配当金	46円00銭	同左	46円00銭
配当金総額	1,507,185,170円	—	1,507,187,424円
効力発生日	2024年12月2日	—	2023年12月1日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

年間配当予想(2024年8月5日公表から変更はありません。)

基 準 日	1株当たり配当金		
	中 間 期 末	期 末	合 計
2025年3月期	46円00銭 (当期実績)	46円00銭 (予想)	92円00銭 (予想)
前期実績 (2024年3月期)	46円00銭	56円00銭	102円00銭

※配当予想につきましては、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の配当は様々な要因により異なる可能性があります。

## 2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約中間連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	12,509	11,833
営業債権及びその他の債権	8,237	6,689
その他の金融資産	71	—
棚卸資産	16,375	17,788
その他の流動資産	733	859
流動資産合計	37,927	37,170
非流動資産		
有形固定資産	18,115	18,547
使用権資産	2,120	1,819
のれん	14,280	14,280
無形資産	242	214
持分法で会計処理されている投資	14,944	15,028
その他の金融資産	6,792	6,520
退職給付に係る資産	—	2
繰延税金資産	129	129
営業債権及びその他の債権	15	17
その他の非流動資産	1,350	1,355
非流動資産合計	57,990	57,916
資産合計	95,918	95,087

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
借入金	8,000	6,910
営業債務及びその他の債務	6,898	6,591
リース負債	880	761
その他の金融負債	77	71
未払法人所得税等	1,781	1,462
引当金	218	171
その他の流動負債	2,991	2,793
流動負債合計	20,847	18,762
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	18	35
リース負債	1,643	1,311
その他の金融負債	98	96
退職給付に係る負債	394	396
引当金	430	432
繰延税金負債	1,317	1,359
その他の非流動負債	58	58
非流動負債合計	3,962	3,689
負債合計	24,810	22,452
資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	34,690	34,694
自己株式	△3,528	△3,528
その他の資本の構成要素	1,932	1,752
利益剰余金	31,012	32,716
親会社の所有者に帰属する持分合計	71,107	72,635
資本合計	71,107	72,635
負債及び資本合計	95,918	95,087

(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書  
(要約中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上収益	44,965	48,221
売上原価	37,438	38,048
売上総利益	7,526	10,173
販売費及び一般管理費	5,093	5,404
その他の収益	276	107
その他の費用	31	47
営業利益	2,678	4,828
金融収益	1,367	79
金融費用	46	41
持分法による投資利益	202	100
税引前中間利益	4,202	4,967
法人所得税費用	1,114	1,504
中間利益	3,087	3,462
中間利益の帰属		
親会社の所有者	3,087	3,462
非支配持分	—	—
中間利益	3,087	3,462
1株当たり中間利益		
基本的1株当たり中間利益(円)	94.25	105.69

(要約中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間利益	3,087	3,462
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値 で測定する金融資産	141	△49
持分法適用会社におけるその他の包括 利益に対する持分	3	6
純損益に振り替えられることのない 項目合計	144	△43
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	338	△3
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	338	△3
税引後その他の包括利益	483	△46
中間包括利益	3,571	3,416
中間包括利益の帰属		
親会社の所有者	3,571	3,416
非支配持分	—	—
中間包括利益	3,571	3,416

(3) 要約中間連結持分変動計算書

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2023年4月1日時点の残高	7,000	34,687	△3,534	△12	1,559
中間利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	338	144
中間包括利益合計	—	—	—	338	144
自己株式の取得	—	—	△0	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	△1	6	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	△9
非金融資産への振替	—	—	—	△161	—
所有者との取引額合計	—	△1	6	△161	△9
2023年9月30日時点の残高	7,000	34,686	△3,528	164	1,694

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2023年4月1日時点の残高	—	1,546	28,563	68,264	68,264
中間利益	—	—	3,087	3,087	3,087
その他の包括利益	—	483	—	483	483
中間包括利益合計	—	483	3,087	3,571	3,571
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
配当金	—	—	△1,212	△1,212	△1,212
株式報酬取引	—	—	—	5	5
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	△9	9	—	—
非金融資産への振替	—	△161	—	△161	△161
所有者との取引額合計	—	△171	△1,202	△1,369	△1,369
2023年9月30日時点の残高	—	1,858	30,449	70,466	70,466

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2024年4月1日時点の残高	7,000	34,690	△3,528	155	1,776
中間利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	△3	△43
中間包括利益合計	—	—	—	△3	△43
自己株式の取得	—	—	△0	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	4	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	△75
非金融資産への振替	—	—	—	△58	—
所有者との取引額合計	—	4	△0	△58	△75
2024年9月30日時点の残高	7,000	34,694	△3,528	94	1,658

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2024年4月1日時点の残高	—	1,932	31,012	71,107	71,107
中間利益	—	—	3,462	3,462	3,462
その他の包括利益	—	△46	—	△46	△46
中間包括利益合計	—	△46	3,462	3,416	3,416
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
配当金	—	—	△1,834	△1,834	△1,834
株式報酬取引	—	—	—	4	4
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	△75	75	—	—
非金融資産への振替	—	△58	—	△58	△58
所有者との取引額合計	—	△133	△1,759	△1,888	△1,888
2024年9月30日時点の残高	—	1,752	32,716	72,635	72,635

(4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間利益	4,202	4,967
減価償却費及び償却費	1,226	1,174
金融収益	△1,367	△79
金融費用	46	41
持分法による投資損益(△は益)	△202	△100
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,033	△1,414
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△397	1,494
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△1,571	△162
その他	△337	△316
小計	△436	5,604
利息及び配当金の受取額	1,378	82
利息の支払額	△44	△39
法人所得税の支払額	△628	△1,666
営業活動によるキャッシュ・フロー	269	3,980
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	1,000	—
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△1,043	△1,408
有形固定資産の除却による支出	△2	△33
有形固定資産の売却による収入	—	5
投資の取得による支出	△14	△15
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	△527	—
投資の売却、償還による収入	33	204
その他	16	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△538	△1,300
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△1,090
リース負債の返済による支出	△449	△435
配当金の支払額	△1,211	△1,832
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,661	△3,357
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,929	△676
現金及び現金同等物の期首残高	11,263	12,509
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,334	11,833

(5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループはサービス内容・経済的特徴を考慮したうえで事業セグメントを集約し、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」を報告セグメントとしています。

「Sugarセグメント」においては、精製糖事業として主に砂糖の製造・販売を行っています。また、「Food&Wellnessセグメント」においては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業があり、フードサイエンス事業としては主にその他甘味料や機能性素材の製造・販売を行っており、フィットネス事業としてはフィットネスクラブの運営を行っています。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。

このため、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しています。

(3) 報告セグメントに関する情報

当社グループの報告セグメントによる収益および業績は以下のとおりです。

セグメント間の内部収益および振替高は市場価格を勘案して決定しています。

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益					
外部収益	38,385	6,579	44,965	—	44,965
セグメント間収益	6	61	68	△68	—
合計	38,392	6,640	45,033	△68	44,965
セグメント利益 又は損失(△) (注) 1	2,558	633	3,191	△513	2,678
金融収益	—	—	—	—	1,367
金融費用	—	—	—	—	46
持分法による投資利益	—	—	—	—	202
税引前中間利益	—	—	—	—	4,202

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約中間連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円		
売上収益					
外部収益	41,446	6,775	48,221	—	48,221
セグメント間収益	0	62	62	△62	—
合計	41,446	6,838	48,284	△62	48,221
セグメント利益					
又は損失(△) (注) 1	5,007	348	5,355	△527	4,828
金融収益	—	—	—	—	79
金融費用	—	—	—	—	41
持分法による投資利益	—	—	—	—	100
税引前中間利益	—	—	—	—	4,967

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約中間連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。